

# 2023年度 第1四半期決算 カンファレンスコール

2023年8月4日  
取締役CFO  
半田 宗樹

01

## 2023年度 第1四半期決算概況

02

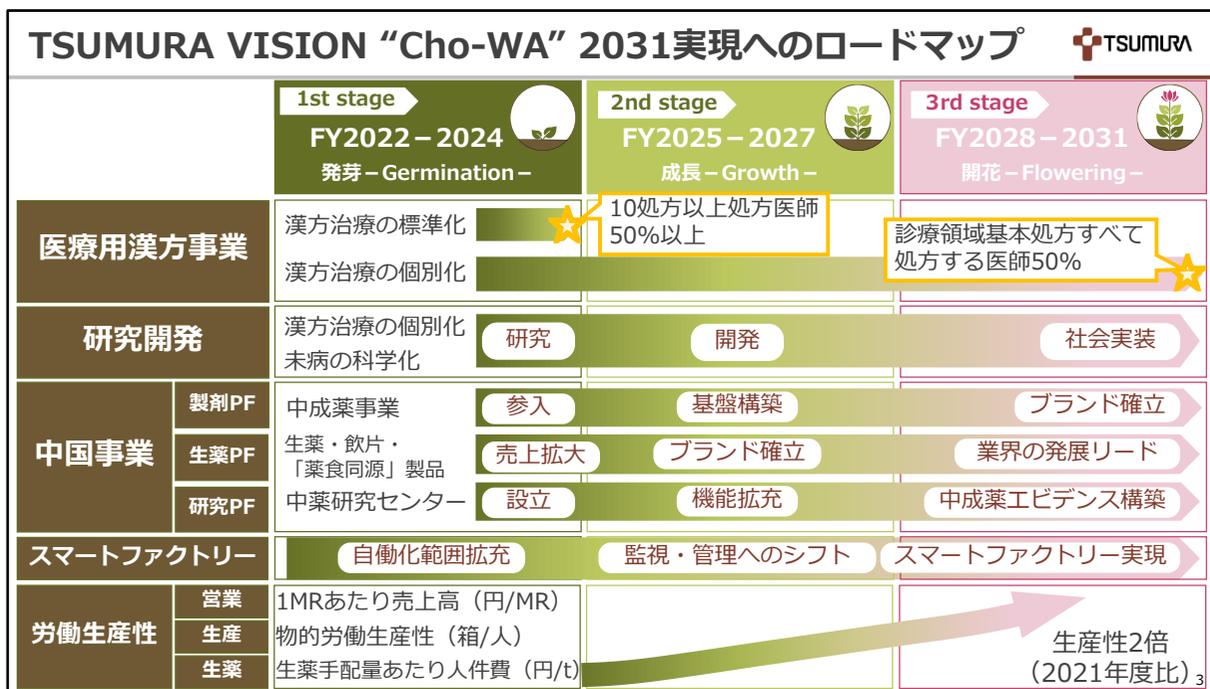
国内事業の取り組み、進捗状況

03

中国事業の取り組み、進捗状況

本日の内容です。

2023年度第1四半期決算の概況、国内事業の取り組み・進捗状況、中国事業の取り組み・進捗状況についてご説明いたします。



2022年5月に発表しました、TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031実現  
 へ向けたロードマップです。

2024年度までの第1期中期経営計画は、ビジョン実現に向けた先行投資・基盤構築を行うステージと位置付けております。

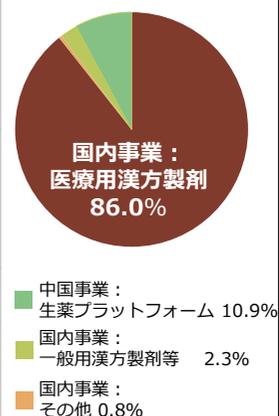
## 2023年度 第1四半期 決算概況



【百万円】	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	前年同期比		2023年度 上期計画	進捗率 (対上期計画)
			金額	増減率		
<b>売上高</b>	<b>34,417</b>	<b>37,036</b>	<b>+2,618</b>	<b>+7.6%</b>	<b>74,000</b>	<b>50.0%</b>
国内事業	31,562	32,988	+1,426	+4.5%	65,900	50.1%
中国事業	2,855	4,047	+1,191	+41.7%	8,100	50.0%
<b>営業利益</b>	<b>6,353</b>	<b>4,684</b>	<b>△1,668</b>	<b>△26.3%</b>	<b>9,500</b>	<b>49.3%</b>
国内事業	6,404	4,684	△1,719	△26.9%	9,900	47.3%
中国事業	△50	0	+51	-	△400	-
<b>経常利益</b>	<b>8,665</b>	<b>5,989</b>	<b>△2,676</b>	<b>△30.9%</b>	<b>9,800</b>	<b>61.1%</b>
親会社株主に帰属する <b>四半期純利益</b>	<b>6,632</b>	<b>4,332</b>	<b>△2,300</b>	<b>△34.7%</b>	<b>6,800</b>	<b>63.7%</b>
PL換算レート* (円/元)	18.32	19.36	+1.04	-	-	-

※期中平均レートであり、原料生薬の輸入レートとは異なります

売上高構成比率



4

2023年度 第1四半期決算の概況です。

売上高は370億円で、前年同期比 7.6%伸長しました。

上期計画に対する進捗率は50.0%です。

内訳は国内事業が329億円、中国事業が40億円でした。

売上構成比は右の円グラフの通りです。

営業利益は前年同期比26.3%減少の46億円で、上期計画に対する進捗率は49.3%です。

経常利益は、前年同期比30.9%減少の59億円、上期計画に対する進捗率は61.1%です。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比 34.7%減少の43億円、上期計画に対する進捗率は63.7%となりました。

## 決算のポイント



- ・ 国内事業、中国事業の伸長により増収
- ・ 未実現利益の影響、生薬調達コストの上昇、円安等の影響により減益

<b>売上高</b>	<b>37,036</b>	<b>百万円</b>	前年同期比	+7.6%	進捗率 (対上期計画)	50.0%
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内事業 医療用漢方製剤 (129処方) : 31,838百万円 前年同期比 5.2%伸長</li> <li>          一般用漢方製剤等 : 837百万円 前年同期比 7.2%減少</li> <li>■ 中国事業 原料生薬、飲片、「薬食同源」製品等 : 4,047百万円 前年同期比 41.7%伸長</li> </ul>						
<b>営業利益</b>	<b>4,684</b>	<b>百万円</b>	前年同期比	△26.3%	進捗率 (対上期計画)	49.3%
<b>営業利益率</b>	<b>12.6</b>	<b>%</b>	前年同期比	△5.9pt		
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原価率 : 54.9% 前年同期比 +7.1pt : 前年同期は上海ロックダウンにより未実現利益が減少、今期は在庫増により未実現利益が増加 加えて、生薬調達コスト、円安の影響等</li> <li>■ 販管費率 : 32.4% 前年同期比 △1.3pt : 漢方バリューチェーンのDX化等の成長投資を売上高増で吸収</li> </ul>						
<b>経常利益</b>	<b>5,989</b>	<b>百万円</b>	前年同期比	△30.9%	進捗率 (対上期計画)	61.1%
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海外子会社への貸付金等に係る為替差益 : 929百万円 前年同期比 △1,070百万円 ※為替差益は計画では未計上</li> </ul>						
親会社株主に帰属する <b>四半期純利益</b>	<b>4,332</b>	<b>百万円</b>	前年同期比	△34.7%	進捗率 (対上期計画)	63.7%

5

決算のポイントです。

国内事業の医療用漢方製剤129処方の売上高は、前年同期比5.2%伸長の318億円でした。

限定出荷の状況下において、一部制限していたe-プロモーションによる情報提供活動を、限定出荷の解除に合わせて再開したことや循環器領域、不安・不眠・めまい等に関連する処方継続したことにより伸長しました。一般用漢方製剤等は、風邪症状に関連する処方等の品薄の状況が継続している影響で、前年同期比7.2%減少の8億円でした。

一般用漢方製剤の生産能力増強のため、7月から新しい製造ライン稼働しており、品薄は徐々に解消していく見通しです。

中国事業売上高は、生薬プラットフォームにおける原料生薬の販売拡大により、前年同期比41.7%伸長の40億円となりました。

売上原価率は54.9%で、前年同期比プラス7.1ptとなりました。

増加要因としては、未実現利益の増加、生薬調達コスト上昇、円安、さらにはエネルギー費と原資材費の高騰の影響を受けました。

詳細は後程ご説明いたします。

販管費率は32.4%で、前年同期比マイナス1.3ptとなりました。

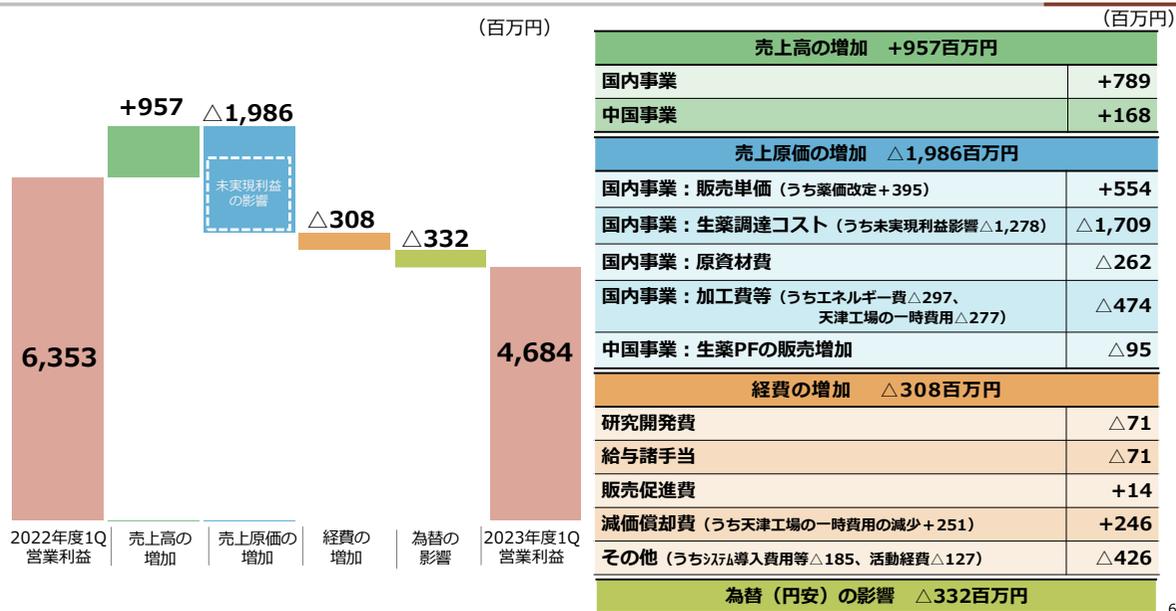
漢方バリューチェーンのDX化等に向けた成長投資による増加分を売上高増で吸収しました。

営業利益は前年同期比26.3%減少し、46億円となりました。

営業外損益では、円安による在外子会社への貸付金に係る為替差益が9億円発生した結果、経常利益は59億円となり、上期計画に対する進捗率がやや高くなっております。

以上により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比34.7%減少し、43億円となりました。

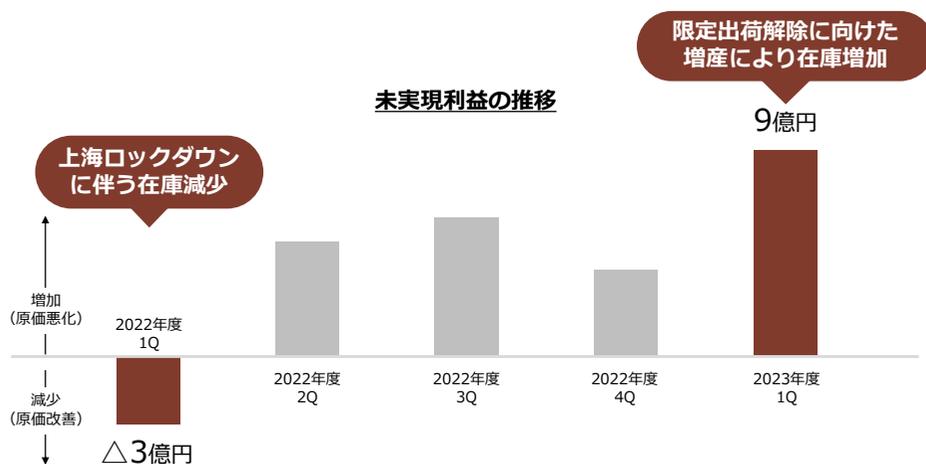
## 営業利益の増減要因（前年同期比）



6

営業利益の増減要因です。ポイントのみご説明いたします。  
 営業利益は、前年同期比で16億円減少し、46億円でした。  
 売上高増加による影響はプラスの9億円でした。  
 内訳は国内事業でプラス7億円、中国事業でプラス1億円です。  
 売上原価の増加による影響は、マイナス19億円でした。  
 プラスの薬価改定を含め、販売単価の変動で5億円の改善はありましたが、生薬調達コストの上昇でマイナス17億円、原資材費の高騰でマイナス2億円、加工費の増加でマイナス4億円となりました。  
 生薬調達コストの増加による影響17億円においては、そのうち一時的な未実現利益の影響が12億円含まれております。  
 こちらについては後ほどご説明いたします。  
 また、加工費においては、エネルギー費の上昇2億円に加えて、天津工場の一時費用が2億円含まれております。  
 天津工場については、出荷開始に向けプロセスバリデーションを進めており、製造したものは棚卸資産に計上しておりますが、プロセスバリデーション休止期間に係る固定費については、売上原価に計上しております。  
 経費の増加に伴う影響は、マイナス3億円でした。  
 主に漢方バリューチェーンのDX化に向けたシステム関連費用の増加によるものです。  
 為替影響額は、マイナス3億円でした。  
 主に円安による生薬の輸入コストの上昇の影響です。

限定出荷解除に向けた対応等により、未実現利益が一時的に増加、2Q以降で減少に向かう



生薬調達コストにおける未実現利益の影響です。

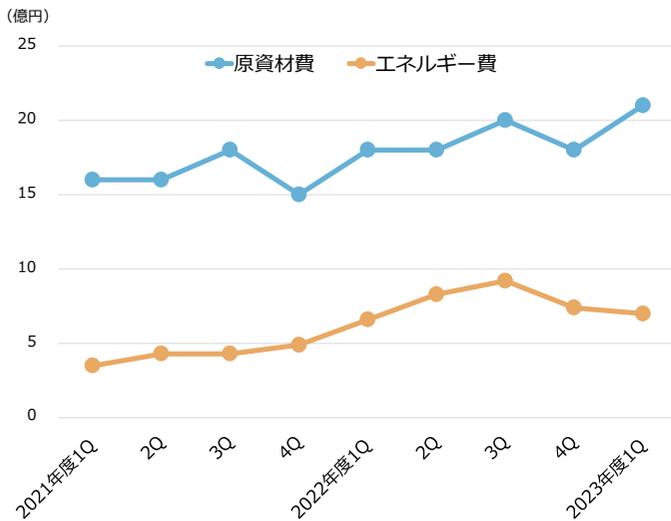
2022年度の第1四半期は、国内事業の販売が好調な中、上海ロックダウンにより上海工場が約2か月程度、稼働停止したことにより、棚卸資産が大きく減少しました。

その結果、在庫に含まれる内部利益である未実現利益が減少し、売上原価が改善する方向に未実現利益が影響しておりました。

一方、2023年度の第1四半期は、限定出荷解除に向けた計画的な増産等により在庫が増加した結果、未実現利益が一時的に増加し、売上原価が悪化する方向に影響しております。

この未実現利益の増加は一時的な事象であり、限定出荷の解除に伴い第2四半期以降で減少していく見通しです。

## 原資材費、エネルギー費の推移



### 原資材費

- ・インフレ、円安の影響により2022年度から上昇
- ・2023年度2Q以降については、横ばいとなる見通し

### エネルギー費

- ・2022年度から急激に上昇し、2022年度3Qがピーク
- ・2023年度2Q以降については、2023年度1Qと同水準になる

原資材費、エネルギー費の推移です。

原資材とは漢方製剤の製造に使用する、生薬以外の賦形剤や包装材などを指しますが、インフレ、円安の影響により、2022年度から購入価格が上昇しております。

こちらについては、取引先の複線化などの取り組みを進めながら、引き続き市場の動向を注視しておりますが、2Q以降は横ばいで推移すると見込んでおります。

一方、エネルギー費については、2022年度から急激に上昇していましたが、2022年度後半にピークアウトを迎えたと認識しております。

2023年度2Q以降においては安定した価格での取引になり、売上原価への影響は縮小していく見通しです。

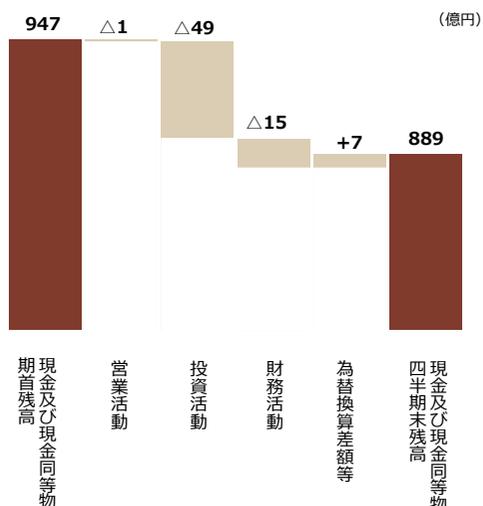
# 財政状態 および キャッシュ・フロー



(百万円)

	2022年度 (2023.3)	2023年度 1Q	増減額
<b>資産合計</b>	<b>396,813</b>	<b>405,437</b>	<b>8,623</b>
流動資産	268,320	272,369	4,048
固定資産	128,492	133,067	4,574
<b>負債合計</b>	<b>124,566</b>	<b>126,345</b>	<b>1,779</b>
流動負債	47,205	49,402	2,197
固定負債	77,361	76,943	△418
<b>純資産合計</b>	<b>272,246</b>	<b>279,091</b>	<b>6,844</b>
自己資本比率	63.5%	63.2%	△0.3pt

	2022年度 (2023.3)	2023年度 1Q	増減額	内、為替
<b>棚卸資産計</b>	<b>101,726</b>	<b>107,501</b>	<b>5,774</b>	<b>1,306</b>
商品及び製品	11,257	12,659	1,402	83
仕掛品	14,430	17,064	2,633	66
原材料及び貯蔵品	76,038	77,777	1,738	1,156



9

財政状態およびキャッシュフローです。

こちらポイントのみご説明いたします。

流動資産は、主に限定出荷解除に向けた増産に伴う棚卸資産の増加の影響により、57億円増加しました。

固定資産は、主に天津工場の建設に伴う設備投資とIT基盤刷新に伴うシステム関連投資の影響により45億円増加しました。

自己資本比率は0.3pt低下の63.2%となりました。

キャッシュ・フローは、右側の滝グラフのとおりです。

01 2023年度 第1四半期決算概況

02 **国内事業の取り組み、進捗状況**

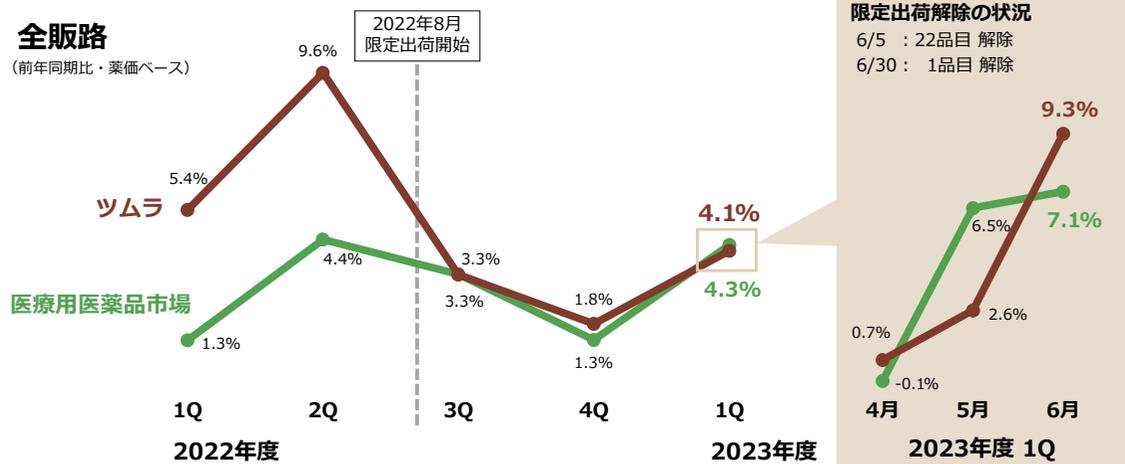
03 中国事業の取り組み、進捗状況

2つ目の国内事業の取り組み、進捗状況についてご説明いたします。

6月の限定出荷品目（23品目）の解除により伸長率は回復

全販路

(前年同期比・薬価ベース)



Copyright © 2023 IQVIA. 「JPM 2021年4月～2023年6月」をもとに当社が独自に集計 無断転載禁止 11

医療用医薬品市場との比較です。

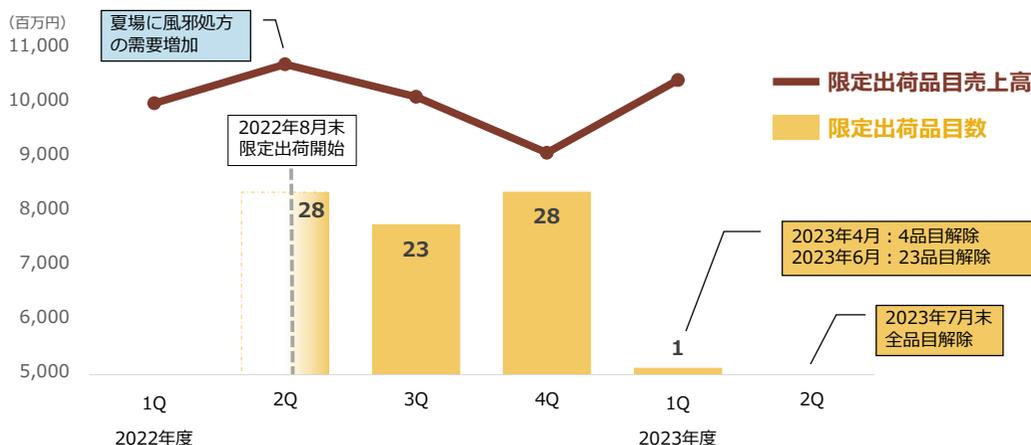
病院と一般診療所の全販路における、薬価ベースでの前年同期比の伸長率を示しております。

当社は、2022年度第2四半期までは市場を上回って推移しておりましたが、2022年8月末から限定出荷を実施したことにより、第3四半期以降の伸長率は市場と同水準となりました。

右側のグラフは、2023年度第1四半期を月別に分解したものです。限定出荷の解除を進めたことにより、6月単月では市場を上回る伸長率となりました。

## 限定出荷品目の売上高推移

- ・ 2022年8月末以降の限定出荷開始により、冬場に風邪処方の売上が低下
- ・ 限定出荷解除により、6月から限定出荷品目の売上高が回復



限定出荷品目の売上高推移です。

2022年7月頃からのCOVID-19オミクロン株の流行により、解熱鎮痛剤などが限定出荷となり、その影響を受け、漢方薬も8月から葛根湯や麦門冬湯などの風邪関連処方を含む28品目が限定出荷となりました。

そのため、例年、需要が増加する冬場の時期である第3四半期以降においては、全ての需要に応えることができず、限定出荷品目の売上高は減少しました。

限定出荷の状況としては、2023年7月末にすべての品目の限定出荷を解除しました。

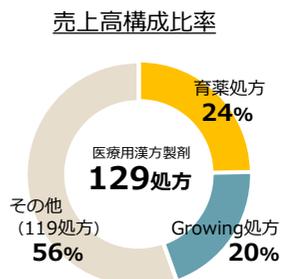
それに伴い、限定出荷の対象品目の売上高は、回復しております。

# 育薬処方・Growing処方 売上高



(百万円)

	売上 順位	製品No. / 処方名	2022年度1Q	2023年度1Q	前年同期比	
育薬 処方	1	100 大建中湯	2,505	2,515	+9	+0.4%
	2	54 抑肝散	1,933	1,940	+6	+0.4%
	4	43 六君子湯	1,860	1,861	+1	+0.1%
	9	107 牛車腎気丸	932	995	+62	+6.7%
	23	14 半夏瀉心湯	359	370	+11	+3.2%
育薬処方合計			7,591	7,683	+92	+1.2%
Growing 処方	3	41 補中益気湯	1,881	1,931	+49	+2.6%
	5	17 五苓散	1,542	1,801	+259	+16.8%
	6	24 加味逍遙散	1,296	1,305	+9	+0.7%
	17	137 加味帰脾湯	501	590	+88	+17.7%
	18	108 人參養栄湯	507	561	+54	+10.6%
Growing処方合計			5,730	6,191	+461	+8.0%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			16,956	17,964	+1,007	+5.9%
医療用漢方製剤129処方合計			30,277	31,838	+1,560	+5.2%



※牛車腎気丸は2023年4月2日まで限定出荷

13

医療用漢方製剤の育薬・Growingの処方別売上高です。

医療用漢方製剤129処方の売上高は318億円で、前年同期比5.2%伸長しました。

育薬処方においては、限定出荷期間中のプロモーションを一部制限したことにより前年同期比1.2%の伸長に留まりました。

Growing処方は、五苓散、加味帰脾湯、人參養栄湯が引き続き伸長したことから、前年同期比8.0%の伸長となりました。

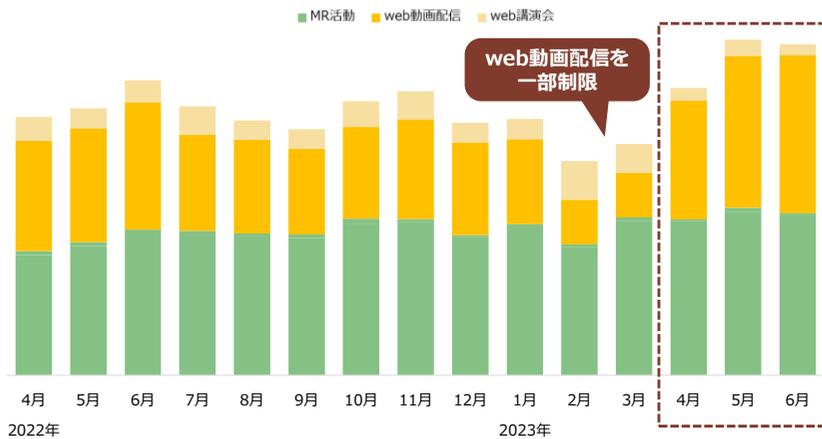
五苓散は、循環器領域や頭痛、めまいを中心に、加味帰脾湯は、精神不安や不眠などのニーズへ対応し、人參養栄湯は、高齢者のフレイルに伴う食欲不振に処方され伸長しました。

その他119処方の売上高は、前年同期比5.9%伸長の179億円でした。

限定出荷の解除に伴い、風邪関連処方が伸長しています。

限定出荷後、web動画配信などを一部制限、限定出荷解除後は活動を再開

ディテールインパクト件数の推移



e-プロモーション

限定出荷の解除により、情報提供活動を従前の状態に戻している

MR活動

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことにより、MR活動は回復傾向

\*ディテールインパクト件数：MR活動やインターネットなど各チャネルからの情報認知件数  
 \*e-プロモーション：WEB講演会や動画配信などによる情報提供  
 \*MR活動：MRを介した情報提供+リアル講演会

インデジヘルスケア調査「Impact Track」

限定出荷解除後の情報提供活動の状況です。

こちらのグラフは、緑色のMR活動と黄色のe-プロモーションによる医師の情報認知件数である「ディテールインパクト件数」の推移をお示したものです。

限定出荷後は、eプロモーションのweb動画配信を一部制限したこともあり、ディテールインパクト件数は低下しましたが、限定出荷の解除に合わせて情報提供活動を従前の状態に戻しております。

その結果、4月以降のディテールインパクト件数は上昇しております。

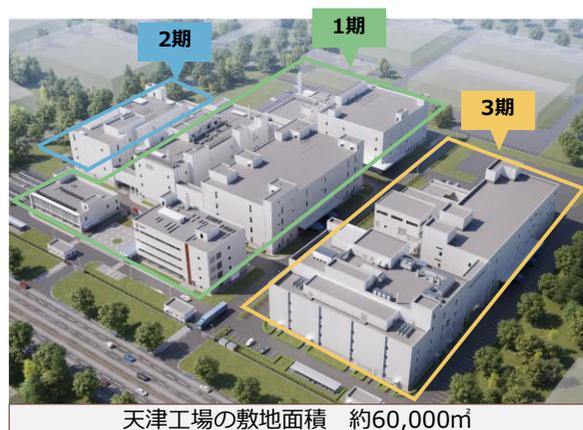
また、MR活動においてもCOVID-19の5類移行により面談数等が回復傾向にあります。

今後は5、6月を上回るディテールインパクト件数を目指し、積極的な情報提供活動を推進していきます。

## 国内事業向け生産能力の増強：天津工場（天津津村製薬）の立上げ

- ・ 1期は、出荷開始時期の前倒しにむけ手続き中
- ・ 2期、3期の建設は、計画通りに進捗

1～3期までがフル稼働により、  
漢方エキス粉末（中間製品）の  
生産能力は約35%アップ



### 1期工事

- ・ 漢方エキス粉末生産設備、倉庫、ユーティリティ等
- ・ 投資額：約150億円
- ・ 2023年度内に出荷開始予定

### 2期工事

- ・ 漢方エキス粉末生産設備
- ・ 投資額：約85億円
- ・ 竣工：2024年1月予定

### 3期工事

- ・ 漢方エキス粉末生産設備、品質管理機能等
- ・ 投資額：約140億円
- ・ 竣工：2025年3月予定

15

生産能力増強のために進めている、天津工場の立上げの進捗です。

天津工場は、国内事業向けの中間製品である漢方エキス粉末を製造する工場です。1期から3期工事までを行います。

1期については、既に竣工し、2023年度内に出荷開始を予定しており、増加する漢方製剤の需要動向を踏まえ、可能な限り、出荷開始時期を前倒しできるように、関係各所との手続きを進めております。

また、2期工事、3期工事については既に着工しており、2期は2024年1月、3期は2025年3月の竣工を予定しております。

建設は計画通りに進捗しております。

1期～3期までがフル稼働した際には、当社グループ全体での漢方エキス粉末の生産能力が約35%アップします。

これに加え、その他の工程の増強を順次進めていくことで漢方市場の拡大に応える生産体制の構築に努めていきます。

01 2023年度 第1四半期決算概況

02 国内事業の取り組み、進捗状況

03 **中国事業の取り組み、進捗状況**

最後に、中国事業の取り組み、進捗状況についてご説明いたします。

品質を起点とした営業活動により、主力の原料生薬を中心に販売が伸長

原料生薬



原料として、  
中成薬メーカー等へ販売

飲片（刻み生薬）

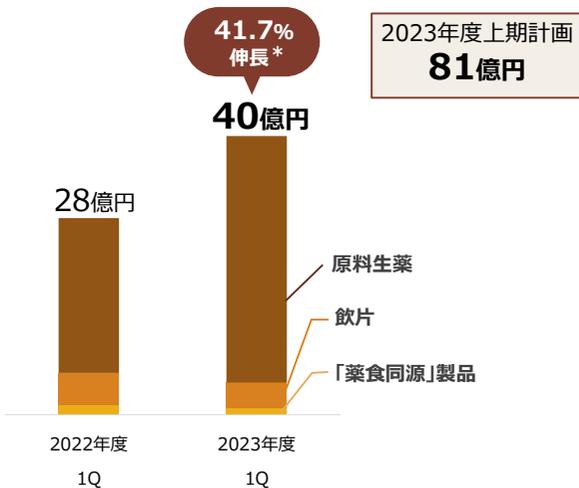


病院や薬局へ医療用や  
OTCとして販売

「薬食同源」製品



生薬を活用した健康食品を  
一般消費者に販売



生薬プラットフォームの事業拡大の取り組みです。

生薬プラットフォームにおいては、主に原料生薬、飲片、「薬食同源」製品を販売しております。

品質を起点とした営業活動を継続的に推進したことで、原料生薬を中心に、前年同期比41.7%伸長の40億円の売上高となりました。

生薬プラットフォームは順調に事業規模を拡大しており、計画通りに進捗しております。

平安津村有限公司による陝西紫光辰濟薬業有限公司の  
持分譲渡に関する契約締結のお知らせ

経緯

- 4月13日に持分譲渡契約を締結（紫光辰濟の持分を100%取得）
- 本プロジェクトのすべての手続き完了（2023年5月9日）後、陝西省宝鶏市政府（以下「同市政府」）より、同市政府担当部門による国家政策・関連法規等に対する解釈の相違があったことが判明した旨の連絡を受ける。
- その後、同市政府担当部門との協議を重ねたが、本プロジェクトを継続実施する条件が満たされないとの判断に至った。
- 同市政府の意見を理解・尊重し、紫光辰濟の持分譲渡した。

持分譲渡の相手先：深圳市華融泰資産管理有限公司、宝鶏市投資（集団）有限公司

売却株式数：100%の持分

売却価額：254,788千人民元

契約締結日：2023年7月27日

業績に与える影響：2024年3月期の当社連結業績に与える影響は軽微

18

製剤プラットフォームに関して、7月31日にリリースしました内容についてです。

2023年4月13日に持分譲渡契約を締結し、2023年5月9日に本プロジェクトのすべての手続きを完了して、紫光辰濟の持分を100%取得しました。

その後、陝西省宝鶏市政府より、同市政府担当部門による国家政策・関連法規等に対する解釈の相違があったことが判明した旨の連絡を受けました。

同市政府担当部門との協議を重ねましたが、本プロジェクトを継続実施する条件が満たされないとの判断に至ったため、同市政府の意見を理解・尊重し、紫光辰濟の持分譲渡をしました。

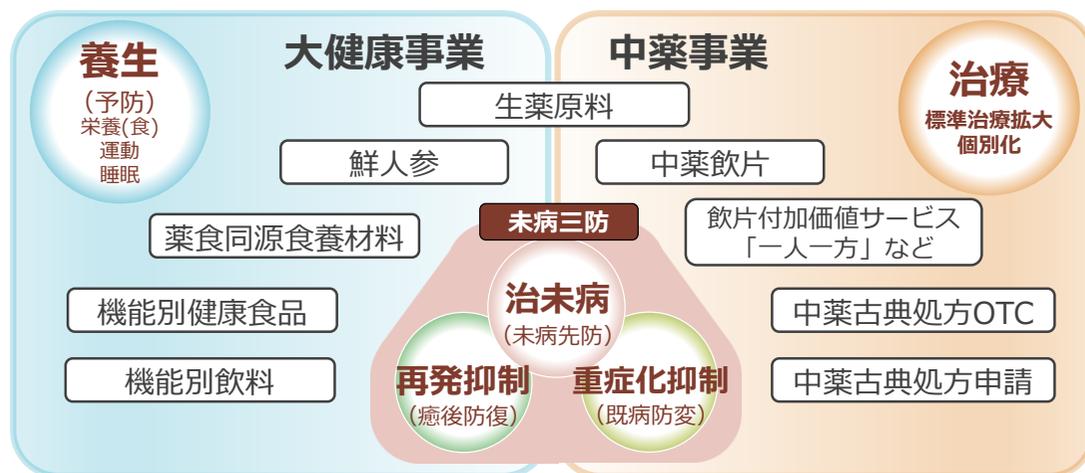
本件による2024年3月期の当社連結業績に与える影響は軽微です。



中国国民の健康に貢献する



原料生薬の安定調達・供給



紫光辰済については先ほどご説明したとおり、持分譲渡となりましたが、中国事業が目指すものとして掲げている、「中国国民の健康への貢献」と「原料生薬の安定調達・供給」については、これまで通り目指してまいります。

事業としては、養生・予防・未病領域である大健康事業と治療・未病領域である中薬・中成薬事業を展開し、業界の発展をリードする中薬ヘルスケア企業に成長していきます。

コーポレート・コミュニケーション室

I R推進グループ

investor\_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。したがって、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制の変更や、金利・為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少したりした場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。

# Appendix

# 薬価改定率の縮小

- ・ 医療用漢方製剤の「価値」の継続的な訴求や業界団体と連携し関係省庁への提言
- ・ 近年は引き下げ率が縮小し、2023年4月はプラス改定

